

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年4月7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675700027
法人名	社会福祉法人 智光会
事業所名	グループホーム 愛の里
所在地	鹿児島県始良郡湧水町米永2371番地 (電話) 0995-74-1488
自己評価作成日	令和3年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田畑が広がるのどかな農村地帯の一角に、特別養護老人ホームと併設してグループホーム愛の里があり、リビングからは遠く霧島の山々を望む事ができる自然豊かな所です。私達スタッフは、利用者様一人一人の生活スタイルに合わせ自分のペースで過ごす事ができ、やりたい事を自信を持って出来るように、さりげなくサポートするように努めています。個別レクや運動の付き添い、季節ごとの壁面づくりを一緒に行い、季節を感じて頂けるよう努めています。毎月、愛の里便りを発行し、生活の様子や行事、連絡等を行っています。利用者様が直面している問題等については、電話や面会時に話し、支援方法等一緒に検討するなど、スタッフと家族が連携を図りながら支えていけるように努めています。医療保険の認知症デイケアを利用され、外出する楽しみ、地域の方との交流の機会が持てるように取り組んでいます。食事については、利用者様の食べたい物を献立に入れたり、地域の方々に頂いた野菜等での食事作りを行っています。健康面については、日頃の健康管理と毎月主治医の定期健診、協力医療機関は認知症疾患医療センターの指定を受けており、専門医との連携に努めています。また、異常時には早期対応が出来るように隣接する特養の看護師との連携に努めています。ご家族様や利用者様が安心して、楽しい日々を送れるように支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、運営母体の特別養護老人ホームに隣接して建てられており、身体拘束適正化委員会や避難訓練等を合同で実施し、特別養護老人ホーム看護師との日常的な連携や利用者の見守り等、法人内協力体制が築かれている。
- ・系列の協力医療機関とは定期受診やデイケアの利用、緊急時対応等の連携・協力体制が整っている。
- ・コロナ感染防止の為、家族の面会を始め法人内の利用者交流も制限している。事業所内でも日常的にマスクを使用し、他科受診後は1週間居室で様子観察する等、感染症予防に取り組んでいる。
- ・家族とのリモート面会や電話・手紙での交流を支援し、事業所からも里便りや電話で利用者の近況を報告する等、家族との繋がりや利用者の活力が失われないよう、支援に取り組んでいる。敷地内での散歩や花見・中庭でのお茶・ドライブ等で利用者の気分転換を図り、事業所に閉じこもらないよう努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人の理念と愛の里の理念を作成。目につく場所に掲示し、ミーティングでは理念をもとに話し合いケアの統一を図っている。	理念を玄関や事務所に掲示し、ミーティング時に理念の確認とケアの振り返りを行っている。年度末には、年間目標を振り返り、理念に基づいた次年度の目標設定に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する特養の入居者やデイ利用の方が立ち寄られたり、近くにある小学校の行事への参加、慰問があるが、今年度はコロナ感染症予防の為、敬老の日は子供達からのお手紙へと対策を図った。	コロナ感染防止の為、職場体験学習を中止したり、敬老の日は小学生から手紙のみが届けられた。隣接の特別養護老人ホームやデイサービスとの交流、美容室や買い物等は自粛している。住民からの野菜の差し入れは玄関の外で受け取る等、できる範囲内で地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議を通して、事業所の状況や認知症についての話をしたり、福祉体験学習の受け入れをおこなっているが、今年度はコロナ感染症予防の為、実施出来なかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では敬老会や避難訓練、食事会を計画し交流の場としている。外部評価の結果は報告し意見を貰っている。スタッフには議事録を見て貰い会議で出た意見はミーティング等で話し合っている。今年度はコロナ感染症予防の為、会議が実施出来なかったため、今後は資料等を配付して意見を頂きたいと思えます。</p>	<p>コロナ感染防止の為、運営推進会議は役所に相談した上で、未実施とした。今後は、会議資料を配布し、意見等の把握のため返信用封筒を同封する予定である。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>空室が出た場合は、長寿福祉課や地域包括支援センターへ相談したり、行政からも入所の相談がある。電話や窓口での相談等行っている。</p>	<p>町担当者とは、電話での相談や報告の為に窓口に出向く等、日頃から連携を図っている。ズーム会議の環境が整った為、今後は町の研修会を受講し、情報収集にも取り組む予定である。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束に関するマニュアルの作成、勉強会を実施しスタッフの共有認識を図っている。日中は施錠せず、自由に外へ出る事が出来る為、見守りに努めている。毎月1回特養と合同で身体拘束適正化委員会を開催している。</p>	<p>法人で指針を作成し、法人内の委員会を毎月実施している。事例検討を含めての研修会を、法人と事業所で各年1回実施している。玄関は施錠せず、外に出る利用者には、職員が同行したり、隣接特別養護老人ホームの職員の協力を得て、見守りや安全で行動を制限しない生活を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で学ぶ機会を持ち理解浸透を図っている。ミーティング等で不適切なケアが行われていないか振り返りをしている。気付いた時には注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在該当者なし。研修等に参加し理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	新規契約、改正時には文書にて細かく説明を行い同意を頂いている。状態の変化による解約時には、その後の対応も含めて、本人・ご家族が納得出来るように話し合い行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者へは要望等尋ねたり、面会時にはご家族へ要望等ないか尋ね話しやすい環境づくりに努めている。ご家族からの電話相談も行っている。出された意見や要望についてはスタッフで話し合い対応行っている。意見箱の設置も行っている。	利用者には日常の会話の中で要望を聞いたり、家族には電話や来訪時に要望等を聞いて可能な限り反映させている。コロナ対策で面会制限の中、帰省家族から顔だけ見たいと強い要望があり、距離を取った窓から利用者が顔を覗かせ、家族に安心してもらえるよう計らった例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者はスタッフの意見に耳を傾け、利用者の処遇についての助言や運営に関してもスタッフの意見を取り入れている。スタッフの様子も気かけられ声掛けを行っている。</p>	<p>日常業務や月1回のミーティング時に職員の意見等を聞いている。利用者の食事形態変更等、ケアに関する提案が出されることが多く、提案は試行してみることになっている。個別相談は介護主任が受け管理者に報告している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>管理者はスタッフが悩み等相談しやすい環境を整えている。資格取得に向けての励ましや支援を行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>特養との合同研修会には多数のスタッフが参加出来るように配慮している。年に1回愛の里担当で研修会開催している。参加できないスタッフには資料を配布している。今年度はコロナ感染症予防の為、資料をもとに各事業所内で実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会を通じて交流を持ち、電話での情報交換を行っている。今年度はコロナ感染症予防の為、電話での情報交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に施設見学や面談を行い本人の心身の状態の把握や不安な事、求めている事を理解し、安心して入所出来るように努めている。今年度はコロナ感染症予防の為、入所前の施設内見学は見合わせて頂いた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めている事や困っている事をよく聞き理解した上でどのような対応が出来るか話し合い行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人・ご家族の思いや状況を確認した上で必要とするサービスに繋がられるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で利用者とスタッフとが「ありがとう」とお互いに言える関係にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時に日頃の状態を報告し、問題に直面した時にはご家族と一緒に対応方法を考えている。また、不安定な時には、ご家族に面会をお願いしたり、一緒に過ごす時間を作っている。今年度は、コロナ感染症予防の為、電話等での対応を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や贈り物のやりとり、ご家族との外出・外泊時には知人に会われている。今年度はコロナ感染症予防の為、外出・外泊は見合わせて頂いた。電話の取次ぎや手紙の代読、手紙の投稿行っている。	家族とのリモート面会や電話・手紙での交流を支援している。事業所からも毎月「愛の里便り」を家族に送付して近況報告を行っており、家族との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士が居室や廊下で一緒に過ごせる環境作りをしている。家事やレク活動は、利用者同士が声を掛け合いながら円滑な関係が保てるように見守り行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた場合、利用者と遊びに行ったりしている。入院時はお見舞いに行ったり、亡くなられた際にはお通夜・葬儀に参列している。退所後もご家族の相談を受けたり、関係性を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の意向や困っている事を聞いたり、言葉や表情などから読み取り、スタッフで話し合っている。スタッフだけでは対応出来ない事はご家族と検討している。	利用者には、日常の生活の中で意向の把握に努め、事務所やリビング・居室で話したりしている。困難な場合は、職員の方から話しかけて表情・仕草等から汲み取って、職員間で共有し、本人中心の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、ご家族にバックグラウンドシートを記入して頂いたり、本人からの聞き取りも行っている。本人やご家族と話す事で情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの変化等個別記録に残し、生活のリズムを把握している。情報の共有化を図る為に申し送りノートの活用、ミーティングで話し合い確認している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、カンファレンスを開き、利用者の状態についてスタッフで周知し、介護計画を作成している。ご家族や主治医からの情報や助言も踏まえて検討している。モニタリングを行い、状態に応じて介護計画の見直しを行っている。今年度はコロナ感染症予防の為、カンファレンスはスタッフ、本人参加で行っている。	本人や家族の希望を聞き、主治医の意見書を基に職員で話し合い介護計画を作成している。モニタリングを毎月実施し、1年に1回及び状況変化時に見直して、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、総合チェック表（バイタル・食事・排泄等）を作成・記入し申し送り時に報告行い情報の共有に努めている。月末にはケアプランの評価を行いプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族の要望に応じて外出や外泊、体調不良時の付き添い宿泊等、臨機応変に対応している。基本は町外の受診はご家族に協力頂いているが、状況に応じては付き添い支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議では愛の里の現状を報告したり、防火訓練時は消防の方の協力を頂いている。学校行事の参加、ボランティア、小・中学校の慰問があるが、今年度はコロナ感染症予防の為、見合わせた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診をしながら、医師との情報交換を行い、状態に応じた支援を行っている。ご家族と受診される際は状態報告し、受診後は結果を聞き記録に残している。	契約時にかかりつけ医の希望を確認し、受診は職員が対応し、結果を家族に報告している。協力機関の定期受診は月1回、緊急時は特別養護老人ホームの看護師と連携し、協力医の指示を受けて対応している。緊急マニュアルがあり、24時間医療連携体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する特養の看護師にその日の状態を申し送りしている。日中・夜間を問わず急変した場合、特養の看護師に状態報告・相談し助言や指示等対応して貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状態に応じた十分な治療と入院が出来るよう医療機関との情報交換を行っている。入院した際は定期的に医師や看護師との情報交換、ご家族からの状態報告、面会等を行い心身のダメージを軽減できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会時等に本人やご家族の意向は確認し記録に残している。事業所で対応し得る最大のケアについては説明を行っている。	契約時に重度化等の場合の対応について説明している。状況の変化に応じて選択肢の説明を実施すると共に、家族の意向を確認している。入院への移行が基本であり、事業所でできる最大限の支援に取り組んでいる。本人の一番良い方法を検討している。利用者の突然死を看取った事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や避難訓練を活用し訓練を行っている。夜勤時の緊急対応については、マニュアルを作成し周知徹底を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防火訓練は利用者の参加、避難誘導、初期消火、通報訓練を年2回開催している。スプリンクラー設置。地域の消防団の協力体制も整っている。災害時の非常食や毛布などを準備している。毎年、運営推進会議の委員にも参加して貰っているが、今年度はコロナ感染症予防の為、見合わせた。</p>	<p>年2回、防火訓練と避難訓練を特別養護老人ホームと合同で実施し、消防署と消防団の立ち会いが1回ある。今年度はコロナ感染防止の為、運営推進会議参加者への協力依頼はしていない。災害用備蓄は、7日分の水とインスタント味噌汁・缶詰・ラーメン・レトルト食品・果物缶詰等の食料やカセットコンロを準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや声掛け、対応に配慮しスタッフ間で気付いた時にはお互い注意している。問題が起きた時にはその都度話し合いを行っている。	研修を実施し、誇りやプライバシーを損ねないように、さん付けで呼びかけ、訪室時のノック・トイレの戸を閉める・排泄の失敗時のさり気ない声かけと対応等に努めている。申し送り等は利用者に内容が分からないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服選びや入浴、外出、レク活動参加等利用者の意思確認行い対応、支援している。表情や行動、反応を把握するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活に合わせた支援に心掛けている。外出等本人の希望時に出来る限り支援出来るように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その日の衣服については一緒に選んだり、髪染め等本人の意向を聞いている。化粧品やクリーム等希望の品物を準備している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理、配膳、下膳は一緒に行っている。現在はコロナ感染症予防の為、スタッフが行っている。嗜好を聞いて代替品を用意している。利用者の食べたい物を聞き献立に取り入れている。畑で収穫した野菜、地域の方々に頂いた野菜も利用している。	利用者の希望を入れて職員が献立を作成し、旬の食材を取り入れ、代替品の用意もある。ホットプレートでギョーザ・お好み焼きを利用者も一緒に作っている。誕生日の特別メニューや行事食も楽しんでいる。自分のものだけ下膳できる利用者はしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は残食量で把握している。水分量についても少ない方には声掛けし水分摂取量のチェックを行う。夜間の飲水の準備、好まれる飲み物の提供行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛け、確認をし誤嚥防止に努めている。義歯消毒は一人ひとりの義歯の状態を見て消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや尿量に応じてトイレ誘導の時間、リハビリパンツ、パット類を検討している。居室内の尿臭に注意し、こまめに換気したり、消臭剤を使用している。	個々の排泄パターン等に応じた声掛けや誘導で、日中はトイレでの排泄を基本に支援している。パット類は本人の意見も聞きながら、適切な物を使用するようにしている。夜間のトイレ誘導時間は個々に検討して支援し、自立した排泄に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握、乳製品の提供、運動等支援し、便秘については予防しているが、状態に応じては緩下剤を服用して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	体調や高齢ということも考慮しながら支援を行っている。希望があればいつでも入浴できる体制である。断られた時は時間を変えたり、日にち変更を行っている。要望に応じて同性介助、身体の状態に応じてリフト浴を行っている。	週2～3回午後を基本に実施し、希望や体調により柔軟に対応している。希望での同性介助や必要時のリフト浴、汚染時のシャワー浴を行っており、拒む場合は、人や時間を変えたり翌日に変更する等、清潔で気持ち良く過ごせるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、家事やレク活動を促したり、散歩、日光浴を取り入れ体内リズムを整えるようにしている。眠れない方は寝たい時間に寝れるよう一緒に過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事説明書で内服薬の把握をし、変更時は記録、申し送りノートへ記載している。服薬時はスタッフ2名で行い誤薬防止に努めている。定期的に服薬の仕方の指導を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事、出来ない事、得意、不得意な事を理解した上で家事や裁縫等お願いし役割を持たれている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節ごとに行事計画を立てて出掛けている。利用者の状態を見ながら、ドライブや外食、散歩等行っているが、今年度はコロナ感染症予防の為、外出は見合わせた。医療保険の認知症デイケアを利用されている。	花見や外食・そうめん流し・ドライブ等の年間計画を立てているが、今年度は、コロナ感染防止の為、敷地内や近隣の散歩、庭での花見、受診時の帰りや希望でドライブに出かける等、外部と接触しないように配慮して外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理されている方は買い物時支払いをされる。管理の難しい方はご家族の希望により預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	要望時や贈り物が届いた際には電話を掛けたり、取次ぎの支援を行っている。年賀状のやりとりや手紙を書かれたら、ポストに入れる等の支援行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自宅から持ってこられた物や作品を飾りその人らしい部屋づくりに努めている。廊下の壁にも作品や写真を飾り、利用者同士の話題作りに努めている。玄関ロビーや廊下には椅子を設け気の合う人同士が集まってお茶を飲みながら談笑できる空間作りに努めている。	リビングは日当たりが良く、十分な換気と空気清浄機・加湿器・エアコンで適度な室内環境である。椅子を玄関や廊下に置いて歩行訓練時の休憩に使ったり、利用者同士の交流の場や一人で好きな場所で過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を設置し、一人で新聞を読まれたり、他者と談笑や音楽を聴いたり過ごせる空間作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具、テレビを持って来られている方やご家族、孫の写真、植物、花、絵を飾りその人なりの好みに合わせた居心地の良い環境の中で過ごせるように配慮している。	居室には、洗面台やダンス・加湿器・エアコンが備えてあり、ベッドは本人の状況で配置を工夫し、寝具はリースである。本人の必要や好みで、ダンスやテレビ・冷蔵庫・毛布・位牌を持ち込んだり、写真や絵を飾って本人が居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドや家具の位置は、本人の要望を聞きながら安全に自立した生活が送れるように配慮している。一人ひとりの出来る事の把握、声掛け、見守りながら持っている能力を活かし自立して暮らせるよう支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない